

第問 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

元方の民部卿の御孫、儲けの君にておはすころ、帝の御庚申かうしんせさせたまふに、この民部卿参りたまへり。更なり。九条殿さぶらはせたまひて、人々あまたさぶらひたまひて、攤打たたさせたまふついでに、冷泉院の孕はらまれおはしましたるほどにて、(A)さらぬだに世人いかがと思ひ申したるに、九条殿「いで、今宵の攤仕たまつらむ」と仰せらるるままに、「この孕はらまれたまへる御子みこ、男におはしますべくは、どう六出で来」とて、打たせたまへりけるに、(B)ただ一度に出で来るものか。ありとある人、目を見かはして、めで感じ嘸はやしたまひ (C)御みづからも「いみじ」とおぼしたりけるに、(D)この民部卿の御気色いと悪しうなりて、色もいと蒼あおくこそなりたりけれ。さて後に、靈りやうに出でまして、「その夜、やがて胸に釘は打ちてき」とこそたまひけれ。

大方、この九条殿、いとただ人にはおはしまさぬにや、おぼしめし寄る行末の事なども、叶かなはぬなくぞおはしましたる。口惜しかりしける事は、まだいと若くおはしましたる時、「夢に、朱雀門の前に、左右の足を西・東の大宮に差し遣りて、北向きにて内裏を抱きて立てりとなむ見え (ア) 」と仰せられけるを、御前に生さかき女房のさぶらひけるが、「いかに御股痛くおはしまし (イ) ちむ」と申したりけるに、(E)御夢違ひて、かく子孫は榮えさせたまへど、摂政・関白えしおはしまさずなりにしなり。

『大鏡』より

注 元方の民部卿 藤原元方 九条殿 藤原師輔

庚申 庚申の日には人体に潜む虫が、人の眠っている間に、その人の悪事を天帝に密告すると信じられ、その日は寝ないで夜を明かした。

攤 二つのサイコロを筒に入れて振り出し、出た目を競う遊び。

どう六 サイコロの六の目が二つ出ること。

参考系図 九条殿 — 安子

冷泉院

帝 (村上天皇)

問一 空欄(ア)(イ)に適合する「つ」の活用した形を記せ。

問二 傍線部(A)「さらぬだに世人いかがと思ひ申したる」について、「世人」は何についてどう考えたのか、説明せよ。

問三 傍線部(B)「ただ一度に出で来るものか」を現代語訳せよ。

問四 傍線部(C)「御みづから」とは誰のことか、文中の言葉で記せ。

問五 傍線部(D)「この民部卿の御気色いと悪しうなりて」について、その理由を説明せよ。

問六 傍線部(E)「御夢違ひて、かく子孫は栄えさせたまへど、摂政・関白えしおはしまさずなりにしなり」を、主語を補って

現代語訳せよ。

【解答例】 東京都立大 平9

問一 (ア) 〓つる (イ) 〓つ

問二 安子が皇子を生んだ場合について、その皇子が元方の孫君をさしおいて行為を継ぐことになるのではないかと懸念していた。

問三 たった一度で出たではないか。

問四 九条殿

問五 安子の子が皇子であった場合、孫君の皇位継承が危うくなるから。

問六 縁起のよい夢がはずれて、このように子孫は栄えていらつしやるのに、九条殿ご自身は摂政・関白になることもお出来にならずに終わってしまったのである。

【通釈】 元方の民部卿の御孫が、皇太子でいらつしやつたころ、帝(村上天皇)が御庚申待ちを催しなされたが、(その席に)この民部卿も参内なされた。それはいうまでもないことである。九条殿も出仕なさつていて、他に人々が多数出仕なさつていて、双六をしてあそんでいらつしやつたその折に、冷泉院をご懐妊なさつていらつしやる頃であつて、そうでなくてさえ世間の人が、「さあ、今夜の双六をいたしましよう」とおおせになりながら、「このご懐妊中の御子が、男でいらつしやるならば、重六が出て来い」といつて、(さいころを)お振りになされたところ、たった一度で出たではないか。そこにいた人はみな、目を見合せて、ほめそやしなされ、御自身も「すばらしい」とお思いなされたが、この民部卿のご機嫌はたいそう悪くなって、顔色もたいそう青くなつてしまった。さて後になつて、死霊になつて出ていらつしやつて、「あの夜、(重六の目が)そのまま私の胸に釘を打つてしまった」とおつしやつた。「別解・九条殿を呪つて、九条殿の藁人形の胸に釘を打つた」

だいたい、この九条殿は、ほんとうに並の人ではいらつしやらないのであろうか、お考えになる将来のことなども、成就しないことはおありにならなかつた。残念であつたことは、まだたいそう若くていらつしやつた時、「夢に、私が朱雀門の前で、左右の足を東と西の大宮通りまで踏んばつて、北向きになつて内裏を抱きかかえて立っていると見えた」とおつしやつたところ、(九条

殿の）御前に小利口な女房が控えていたその女房が、「どんなにお股が痛くていらつしやったでしょう」と申し上げたので、よい御夢がはずれて、このように子孫は榮えていらつしやるのに、（九条殿ご自身は）摂政・関白になることもお出来にならず終わったのである。